

報告テーマ①[1806A]

児童生徒等に対する効果的な交通安全教育を普及させるために何が必要か

～教育普及スキームの構築研究～

プロジェクトリーダー 小川 和久

(1) 研究目的と概要

本研究の目的は、児童生徒等への効果的な交通安全教育を普及させるための要件を明確にし、教育普及スキームを構築することである。本年度は小学生・中学生・高校生を対象に、交通安全マップづくりなどの教育実践等を通して、普及スキームの 4 構成要素、①魅力ある教育プログラム、②エビデンス、③教材・評価ツール、④教育支援に関する基礎資料を収集した。

主な調査結果は次の通りである。

- ①教育自体が興味深いものであれば子どもは自ずと主体的に学習しようとする。
- ②子どもが意欲をもって学ぼうとする教育活動は、教員等の関係者の関心も高めるため、そのことが普及促進の原動力になり得る。
- ③子どもが実際に通行している交差点の画像を子ども主観の角度で提示することで、横断時の確認行動が促される。
- ④学校教員は教育実践の初歩的な段階で悩む傾向がある一方で、教育成果を実感することで指導意欲を高めるとする一面も示す。
- ⑤同じ交通問題を抱える諸外国と、教育開発の海外連携を推進できる可能性がある。

今後、普及スキーム構築への道筋をより明確にし、その成果を国内外で共有していきたい。

(2) 質疑応答

Q. 研究では小学校 3 年生の教育が取り上げられているが、小学校低学年(小学校 1 年生など)に対してはどのような安全プログラムが考えられるか？

A. 低学年であっても、具体的な危険個所の場面を見せながら、どんな危険があるか、どうすれば安全かということを考えるよう指導すれば理解は可能である。また、このような指導は過去に行った実績から効果は見い出されるものと思われる。

Q. 今後の研究の中で特別支援学校を要する発達障害の児童生徒を対象とした教育は行う予定はあるか？

A. 障害にはいろいろな種類があるため、個別の対応が求められるが、過去の危険予測教育実績から、発達障害をもつ子供がとても積極的に参加をしてくれた例がある。障害をもっていたとしても適切な指導をすることで、危険予測能力は身に付けられると思われる。

Q. 小学校 3 年生を対象とした理由を教えてください。

A. 他学年と比べて時間的に比較的余裕がある、社会科の授業の中で地域を取り扱う授業がある、客観的に環境が見え始める時期であることが挙げられる。また、3 年生から安全教育を実施することで高学年に向けて、系統的な教育を発展させることができる狙いもある。

(3) 出席者の感想など(一部抜粋)

- ・自分の業務にも生きてくる部分が多かったので非常に面白く聞かせていただきました。
- ・日本で成果をあげて、海外に展開いただければと思う。
- ・子供の行動変容を追求するのは非常にハードルが高いと思っていたが、今回の報告を聞きかなりヒントを貰った気がする。もう少し時間をかけ、より効果的に行動変容につなげる手法を確立できれば良いと思う。
- ・児童生徒の視点から交通安全について、意識や危険認知を再認識するということはとても面白かった。